

気になる著者

川西由美子



かわにし・ゆみこ

1972年東京都生まれ。98年メンタルヘルスケアの提供会社
株マックスインターナショナル、02年あいマックス株を設
立。両社の代表取締役を務める。医療機関や保険会社との積
極的な提携を行う一方、ストレス対策に関するテレビ、雑誌
等のコーディネートをはじめ、企業内の「ココロの健康管
理」に関する組織規約づくり、臨床心理士の派遣、社員教育
などを行っている。著書に『ココロノマド』（朝日選書）が
ある。http://www.eapjp.com

企業経営者は社員のメンタルケアに 親身になるべきです

私は今から6年前に、企業を対象にメンタルヘルスケアのサービス会社を立ち上げました。実はそのときにも、出版のお誘いがありました。でも、自分としてはまだ経験が浅いこともあって断念した経緯があります。

その後、6年たって自分なりのパターンが定着したことで、ようやく本を出すことについて自分に対してOKを出せるようになったんですね。その上でカウンセラーとしての現場活動から、訴えたいことをまとめたのが本書なんです。

ビジネスマンのココロの問題というと、うつ病や自殺者の増加など、最近とくにクローズアップされています。しかし、この問題はすでに10年以上前から存在していました。というのは、私どもの活動根拠の法令として労働安全衛生法がありますが、92年にはココロのケアについての条文が追加挿入されているのです。つまり、その時期から日本の会社社会は病んでいたといえます。ただし、当時は1人がココロを病んで休職しても、周囲の人間でカバーできたんですね。でも今はみんな目一杯仕事をしているので、部署の組織自体が崩壊するなどの現象が生じています。それで問題がより大きくなっ

ているのです。

もちろん、こうした状況から社員のココロの問題に対応する企業が増えていきます。実際、10年前は「メンタルヘルスって何ですか？」という反応でしたが、今は「休職者の復帰のケアをしてください」というように具体的な依頼に変わっています。依頼件数も急激に増えていて、カウンセラーが足りなくなっていくんです。

ただし、メンタルケアの導入でアドバイスしたいのは、私どものような会社に「丸投げ」しないことです。実際は、契約すればそれでおしまい、という会社が多いんですよ。そうではなく

て、しっかり運用担当者を決めて企業内のコミュニケーションを図っていくことが必要です。そうでないと、まったく機能しないからです。

読者対象としては、やはり企業経営者の方ですね。ココロのケアは企業にとってリスクマネジメントにもなります。ですから、経営者が一番親身になるべきですし、本当は経営者自身のメンタルケアが必要だと思います。もちろん表題のように、メンタルケアの導入によって会社は伸びます。本書には具体的な事例もたくさん入っていますので、多くの経営者が興味をもって読んでいただければうれしいですね。

『ココロを癒せば会社は伸びる』



いわゆるリストラに伴うさまざまな問題から、ビジネスマンのココロの問題がクローズアップされている。本書はそのココロの問題について、最前線で活躍するメンタルケアのサービス提供者が書いたものだ。

問題の背景から現場の状況まで、具体例を示しながらわかりやすく書かれている。業績が上がらなると悩んでいる経営者にとって、大いに参考になるはずだ。

(ダイヤモンド社 1,400円)